



総合学科の創造性 地域の力に

に し め

新志芽通信

No.027

令和8年3月3日
秋田県立西目高等学校

先輩講話 【2月24日(火)】

10名の3年生が、進路決定までに苦労したことやうまくいったこと、後輩たちにこれから頑張してほしいことなどを話しました。就職、進学それぞれについてのアドバイスに、1・2年生のみなさんは一生懸命にメモをとりながら真剣に話に耳を傾けていました。この紙面では、8名の発表内容を紹介しています。1・2年生のみなさんは、聞き取れなかった部分や自分の進路に近い先輩の話をじっくりと読んでみてください。

土木系列 小沼修陽（由利本荘市役所 土木）

私は、入学したての頃は公務員になりたいという気持ちが強くありませんでした。しかし、地元で貢献したいという思いが強くなり、高校2年生の冬から公務員を目指すことにしました。私が公務員試験に合格するために、取り組んできたことを紹介します。

まずは、試験対策についてです。市役所の技術職の試験には、一次試験で行われる教養試験と適性試験、専門試験(土木)や、二次試験で行われる面接があります。

一次試験の教養試験は、数的処理と文章理解の出題数が多いので、教養試験ではそこを優先して勉強をしてきました。教養試験は範囲がとても広いので、早いうちから勉強しておくことが大事です。朝学習の時間や家に帰ってからの時間を有効に使い、問題集に繰り返し取り組みました。専門試験(土木)は、基礎を固めて公式を覚えることが大事です。そして、過去問を何回も繰り返し解くことで、少しずつ解けるようになりました。

次に、面接対策についてです。二次試験は面接のため、面接練習をたくさんやるのが大事です。面接本番では、想定外の質問をされることがあるので、何度も練習を繰り返すことで対応できるようになりました。面接では、事前に提出した面接カードの内容を中心に質問されました。自分の性格や強みや弱みなどについても聞かれるため、今のうちから自己分析などしておくとういす。

また、学校生活での経験も大切です。学校行事や委員会活動、資格の取得、ボランティア活動など、学校生活で行ってきたことが面接で自分をアピールするときに役立ちます。多くの物事に取り組むことで、面接で話せる内容が増えると感じました。

最後に、高校三年間はあっという間に終わってしまうので、一日一日を大切に自分がなりたい将来になれるように頑張ってください。

一番印象に残っていることは、面接練習は10回以上やった方が良いということです。私は様々な質問には対応できないため、そういった所も考えながら練習することを知りました。小論文では、新聞の記事を使って練習するなど、身近なものを使用して取り組むのもいいなと思ったし、行いやすいと思いました。



教養文化系列 船木ひなた（中通高等看護学院）

私は高校入学時、美容系や服飾系への進路を考えていました。そこから看護師に進路を変更した私の経験が、みなさんの進路決定の参考になれば嬉しいです。

私は、小さい頃から美容師になりたいと考えていました。しかし、二年生の時に母が病気になったことや、以前から父に、どこでも働くことができる看護師になってほしいと言われていたことがきっかけとなり、看護師になることを決意しました。模試や補習などにも参加するようになって自分の学力を知り、より一層勉強に励むようになりました。

受験に向けては、面接練習と小論文対策を重点的に行いました。志望校の出題傾向を把握し、似ている問題で何度も練習しました。最初は一日置きに練習して、先生方に添削してもらいました。そして、受験が近づいてからは毎日練習をしました。面接練習でも、多くの先生に協力してもらいました。先生方は過去にされた質問をしてくれたり、とても協力的なので昼休みも練習に付き合ってくれたりしました。アドバイスもたくさんいただき、とても参考になりました。

受験当日は非常に緊張していて不安でしたが、前髪を全部止めてローファーで行くなど、印象が少しでもよくなるように整った服装をしました。とても緊張していたので声出しも兼ね、移動中の車では音楽をかけました。なるべく盛り上がる曲がよいと思います。会場に到着してからはとても緊張感がありましたが、先生からもらったアドバイスや激励を思い出しながら、いつもどおりにできるよう頑張りました。小論文では今まで練習したことのない問題も出てきましたが、焦らずに書き切ることができました。面接では面接官がとても優しく、緊張せずに面接することができました。

無事に合格することができたのは、高校の三年間での自分の頑張りもありますが、先生方や家族、友達など多くの人達に支えられてきたからだと思っています。このことに感謝し、進学先でも一生懸命に看護に向き合いたいです。西目高校の更なる発展と、みなさんの未来が明るいものであることを願っています。頑張ってください。



教養文化系列 高橋茉奈

(東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科)

高校入学当初、私は大学ではなく専門学校への進学を考えていました。しかし、二年生に進級してからより幅広いことを学びたいと思うようになり、大学への進学を考え始めました。それから自分の興味関心や長所、経験などを考慮し、最終的に東北芸術工科大学芸術学部の歴史遺産学科への受験を決めました。

私は総合型選抜の授業体験型という方法で入試を受けたので、その試験のために行った活動について大きく三つのことを紹介したいと思います。

一つ目は探究活動についてです。私は大学で民俗学を学びたいと決めていたので、その分野に関連して「地域の祭りの継承について」という探究テーマを選びました。調査をする上で工夫として、アンケートをとったり、祭りの担い手に直接インタビューをしたりして情報収集をしました。それに加えて、調査の結果とインターネットに上がっているデータを組み合わせ、自分自身の考察を導き出しました。探究については、ふだんから簡潔に話せるように準備をしたり、意見をもっていたりするとよいと思います。

二つ目は授業体験型の試験対策についてです。試験対策は三年生の春から始めました。私が受験した大学では、学科の講義を受けた後にレポートを提出する形式の授業体験型試験があったので、その対策として国語科の先生に小論文の個別指導を申し込みました。そして、講義や問題文を理解して要約する能力や、それに対する自分の意見と具体案などを言語化する能力の向上に努めました。小論文課題に取り組む際は、タイマーをセットするなどして本番の時間配分を考えたり、考えがまとまらないときはインターネットを利用してみたりするのもありだと思います。

三つ目は面接練習についてです。まずはアドミッションポリシーを読み込み、大学がどのような学生を求めているか分析しました。私自身が様々な活動で身につけた力と、自分が大学でどのように学び続けることができるかについて説明できるように、練習を繰り返しました。本番では準備していたことに加え、進学後の生活や一人暮らしについても聞かれたので、県外受験を考えている人は、このような部分も対策しておくとういかもしれません。

ここまでの三つのこととは別に、定期考査についても話したいと思います。

結論から話すと、成績は高くは損はないので勉強はやっておいた方がよいです。進学にも就職にも、ある程度の成績や学力が不可欠だからです。進学する人はもちろん、就職の人でも一般教養を身に付ける点で大事なことだと思います。

私は大学入学後に学力テストがあるので、合格後は苦手教科の英語の勉強を基礎からやり直しました。大学入学共通テストについても勉強を継続していきました。勉強をしたり、知識を身に付けたりすることは、進路に関わらず選択肢を広げるための方法の一つだと私は考えています。みなさんが残りの高校生活の中で、よりたくさんの経験と学びを得ることができるよう願っています。御清聴ありがとうございました。

話を聞いて、成績を伸ばすために、生活習慣を見直し、毎日最低30分は机に向かうことを習慣づけたいと思った。



教養文化系列 志村一咲 (秋田日産自動車)

私は、高校入学当初は進学したいと思っていました。しかし、2年生の後半に就職したいという気持ちも出てきました。ギリギリまで進学か就職か悩み、先生や家族に相談をして今の進路を決定することができました。それでは、私が進路実現に向けて取り組んできたことを紹介します。

まず一つ目は、考査への取組についてです。1・2年生の中にはまだ進路が決まっていない人もいます。しかし、決まっていなかったらということを利用して、勉強から逃げないようにしてください。考査の成績は進路決定をするうえで大きく関わってきます。だからこそ、自分が希望する進路に行けるようにするため、ふだんの授業からしっかり取り組むようにしましょう。成績は3年生の分だけでなく1年生の分も反映されるので、3年生になってから頑張ろうではなく今から頑張っておくことが大事です。テストの点数に自信がない人は、提出物や課題は完璧にしておきましょう。

二つ目は、自分から行動することです。私は、就職試験直前に進路を就職に決めました。周りよりも決めるのが遅かったため、分からないことや焦ることが多かったです。過去の求人票を見たり気になる企業のホームページを見たり、調べたりすることが大事だと感じました。人を頼ることも大事です。特に、悩んでいるときはすぐに担任の先生や進路指導の先生に相談しましょう。進路指導の先生に相談したときに、私に向いている業種や仕事だけでなく、県内にはどんな仕事があるのかも教えていただきました。相談することで、企業に連絡してもらって企業の細かい部分まで知ることができ、自分の中で引っかかっていることが解決します。また、応募前職場見学では一つの企業だけでなく、複数行くことで自分に合った企業を見つけることができます。

三つ目は、自己理解です。進路を決める上で、自己理解は大事なことです。進学先や就職先を決めるときだけでなく、面接のときも聞かれるので、自己理解しておく必要があります。何が苦手な何が好きか？どんな性格か？長所と短所は何か？学校生活でがんばってきたこと、学んだことは何か？を言うようにしましょう。

四つ目は面接練習です。私が面接練習をしていて大事だと感じたことは、回数をこなすことです。最低でも10回は練習しましょう。そうすることで自信にもつながります。面接本番はどれだけ練習してきたかが大きく影響します。たくさん練習することで表情、語彙力なども高めることができます。また、面接官に丁寧な言葉で伝えることも大事ですが、何より自分の考えや気持ちを相手に伝えることが大事です。面接練習では、ふだん関わっている先生だけでなく、関わったことのない先生ともやると緊張感があり、本番を意識することができます。私は、校長先生と練習したときが一番緊張しました。同じ先生と期間を空けて何回も練習すると、成長したところを教えてくれるので面接練習のモチベーションアップにつながりました。練習のとき動画を撮りながら練習すると、記録に残せるので改善点が分かりやすくなります。

最後に、高校生活の3年間はあっという間に終わってしまいます。自分が納得の行く進路になるようによく考え、進路実現を目指してがんばってください。勉強や部活動も頑張りながら、友達との思い出もたくさん作ってください。また、たくさんの人に支えてもらっている感謝の気持ちを忘れず、悔いの残らない高校生活にしてください。



教養文化系列 吉田 雛奈 (カ丸建設株式会社)

私は、高校入学当初から就職をしようと考えていましたが、具体的にどんな職業に就きたいかは決められていませんでした。先生や職場定着就職支援員の先生に相談したり、ハンディで調べたりして進路を決めることができました。私が、進路活動をする上で大事だと思ったことをいくつか紹介します。



一つ目は勉強です。毎日の授業にきちんと取り組むことや、勉強が大事だと思います。就職では、3年生の第一回考査までの成績が企業に送られます。だからこそ、進路がまだ決まっていなくても授業に真剣に取り組む、考査でよい点数を取ることで、自分のやりたいことにつながってくると思います。就職でも進学でも、考査の成績は大事になってくるので毎日の勉強を頑張ってください。

二つ目は企業研究です。就職したい会社が決まったらその会社についてたくさん調べ、面接ノートなどにまとめることが大切だと思います。会社の求人票やホームページ、パンフレット、あればSNSなどから会社の情報がたくさん得られます。たくさん調べることでその会社への理解度が高まり、それが面接対策にもつながるはずです。

三つ目は面接練習です。面接練習は、色々な先生とたくさん練習することが大事だと思います。練習は、やればやるだけよいと思います。色々な先生と練習してたくさんアドバイスをもらって、自分のよいところと悪いところを明確にしながら練習に取り組むことがよいと思います。想定していなかった質問をされることもあるので、急な質問にも答えられるように練習しておくとういことです。たくさん練習することで自信もつきます。

残り少ない高校生活や友達との時間を大切に、進路実現に向けてがんばってください。

進学・就職にかかわらず、学習が大切だと分かった。特に、定期考査の成績は、1年生から3年生の第1回までが学校や企業に送られるということだったので、今のうちから積極的に学習に取り組みたい。学校や企業に少しでも良い印象を与えられるように普段の生活で様々なことを心がけたいと思った。

就職、進学をするために大切なことは、当たり前のことだけれど、定期考査や日々の勉強だと分かりました。この他にも、主体的に就職や進学先について調べることも大事だと分かったので、これから取り組んでいきたいです。先輩方の講話を参考にして、まだ決まっていない自分の進路について決めたいです。そして、決まった進路に向けての準備を少しずつ進めて、新しいスタートを迎えられるようにしたいです。

長時間ダラダラ勉強をするのではなく、少しの時間集中して取り組み、休みを取るということを繰り返すことが大切だとアドバイスをもらって、普段の勉強法に取り入れたいと思いました。これからは、少しでも机に向かう姿勢を意識していきたいです。

農業科学系列 伊藤 輝太 (有限会社 折林ファーム)

私は高校入学当初、大学進学を考えていたため文理系列にしようと思っていました。しかし、親と相談して進路を就職に変え、系列も農業科学系列に変更しました。2年生では農業科学系列での学習を頑張り、3年生になって折林ファームに見学に行った際、先生から折林ファームを勧められました。そして、折林ファームへの就職を目指して進路活動に取り組むようになりました。私が進路活動をする上で、大事だと思ったことを紹介します。



一つ目は、定期考査に向けた日々の勉強です。定期考査の結果は、1年生の頃から大切です。赤点を取ると、その後の学校生活に影響が出る可能性もあります。たとえば、部活動に所属している人は、活動に支障が出る人が多いです。また、就職では、3年生の第一回目の定期考査までの成績が企業に送られます。そのため、進路が決まっていない人も、評定はできるだけ上げておくべきだと思います。そして、折林ファームに筆記試験はなかったのですが、定期考査で赤点があると自動車学校には通えないので、就職試験が終わっても3年生の最後まで気を抜かず取り組みましょう。

二つ目は、面接練習です。面接練習はたくさんやった方がよいと思います。最初は自分の意見が上手く言えなかったり、間違ったりしてしまうことが多くあると思います。しかし、練習を続けていけば必ず上手くできるようになります。さらに、練習をしたときの先生方からのアドバイスをしっかりメモしておく、次の練習のときには前より上手くできるようになると思います。先生によってアドバイスは違うので、様々な先生と練習をしましょう。本番では想定していなかった質問もされる可能性があるため、対応できるように準備しておくとういと思います。

三つ目は、進路活動に高校生活での経験を活かすことです。高校生活での経験は自己PRに書いたり、面接で話したりするときに活かすことができます。私は3年間、陸上競技部に所属し、3年生ではキャプテンを務めたのでそこから得られたことを軸として自己PRを書きました。ただし、部活動に所属していない人でも委員会や系列、学校行事、資格などに関してしっかり活動しているとアピールすることができますし、もちろん、部活動に所属している人は、その経験から得たことを書けると思うので頑張ってください。

最後に、高校三年間はあっという間に終わってしまいます。3年生になってからは進路活動もあるので、更に早く過ぎます。友達との時間や学校行事などを大切にしながら、たくさんの思い出を作ってください。応援しています。

先輩講話を聞いてみて、将来の自分の姿について深く考えました。先輩の落ち着いた態度や自信に満ちた表情を見て、日々の積み重ねが人を成長させるのだと感じました。これからは目の前のことに真剣に取り組む、費筒一つの経験を大切にしていきたいです。私も後輩に良い影響を与えられる存在になれるよう努力していきたいです。

A Iに聞いて答えてもらったことを信じて丸写しより、自分で調べて覚え、自分の脳に定着させた方が信じられると聞いて、確かにそうだなと思ったし、やっぱり自分でやった方が楽しいと思った。

教養文化系列 太田暖陽

(秋田県立大学システム科学技術学部知能メカトロニクス学科)

私は、高校入学時は卒業後の進路を就職にしようと思っていました。しかし、高校2年生の時、担任の先生からの勧めがきっかけとなり、大学進学することを決めました。今日は、私の学習への取り組みについて話したいと思います。

まず、はじめに定期考査についてお話しします。確かに、評定を上げることも大切ですが、一回一回のテスト範囲を十分に理解することが大切だと思います。授業を真面目に聞いていれば、ある程度の内容は理解し、覚えられると思います。そして、習った内容を、時間が立たないうちに復習することをおすすめします。そうするとテストが近くなり、学習するとき、思い出せたり、分からなくても復習すれば、すぐに思い出せることができます。イメージとしては、授業の内容は、日があまり経過しないうちに復習し、テスト2週間前くらいからまた復習を始め、テスト前日には、思い出しながら復習する感じです。そうすると、高得点も狙いやすく、時間が立っても、学習内容が頭に残ります。つまり、評定を高くするだけでなく、長時間記憶できるように学習することが大切だと思います。学習の計画を立てるのは、計画どおり進められる人のみでよいと思います。いつまでに終わらせるといったような、大体の期限を設けるようにして学習することをお勧めします。

次に、進学に向けた学習について話したいと思います。定期考査と異なるのは、範囲が広いことと、出題内容が難しいことです。そこで、模擬試験の復習を中心に学習することがよいと思います。

私は進学を決めた時、教養文化系列で確定していたため、進学がメインの文理系列とは習う内容が違い、入試に必要な教科が足りず、不安もありました。それでも、大学に進学するためにほぼ毎日物理や化学のプリントをもらい、添削指導をしてもらっていました。それ以外にも数学の問題集を購入し、自分で習っていないところの学習にも取り組んでいました。

また、私が常に心がけていたことは隙間時間を大切に、有効活用することです。授業の自習時間や休み時間、朝の時間をうまく活用して学習を進めていました。私はサッカー部に所属し、家で学習時間を確保することが困難だったため、特に隙間時間は大切にしていました。家で1日30分でも、学習することも大切だと思います。時間があまりないから今日の分を明日に後回しするのではなく、少しでも学習する時間を作るために、短い時間でも机に向かうことが大切だと思います。これから新3年生になる2年生は、時間をどれだけうまく使えるかが大事だと思います。

私は、試験科目にプレゼンテーションと口頭試問がありました。私は、探究活動についてのプレゼンを行いました。探究活動では、2年生の時から計画を立て、主体的に実験を行いました。時間が足りないときは、部休の日や夏休みに活動を行いました。その大学を志望した理由に添って探究を行うことも大切だと思います。実際の試験のプレゼンでは、定められた時間内に話し終えるために繰り返し練習し、スピード感を覚えることが大切だと思います。口頭試問では、自分の苦手な単元を中心に、答えにたどり着く過程を確認しながら練習しました。このように繰り返し練習することが大切だと思います。

面接練習で大切だと思うのは、大学について細かく調べる必要があるということです。自分のことはある程度まとめてお

農業科学系列 小野大輝

(秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科)

私は、秋田県立大学 生物資源科学部 アグリビジネス学科への進学を決めることができました。今日は、進路実現に向けて私が行った取り組みについて紹介します。

まず、私は将来農家になりたいと考えていたため、高校入学当時からずっと、高校卒業後は農業に関わる仕事に就職し、収入を得ながら農業に携わり、知識や技術を深めたいと考えていました。しかし、3年時の5月、先生からの勧めや家族との話し合いをきっかけに、より専門的に農業について学びたいと考えるようになり、大学進学へと進路を変更しました。その後、第一志望を福島大学、第二志望を秋田県立大学と決め、進路実現に向けて勉強しました。結果として、第一志望の福島大学には合格できませんでしたが、第二志望であった秋田県立大学への進学が決まりました。私が受験した両大学ともに、小論文と面接のみの受験方式であったため、小論文対策と面接対策に力を入れました。

小論文対策についてお話ししますと、小論文には様々な出題形式があります。私の場合、福島大学では資料分析型、秋田県立大学では文章読解型の小論文が出題されました。どの大学でも、募集要項や過去問を確認することで、事前に出題形式を把握することができます。そのため、早めに出題形式を確認し、それに合った対策を行うことが重要です。私は、過去問を用いた練習に加え、新聞記事を使った資料分析や文章読解の練習に取り組みました。

次に、面接練習についてです。面接練習は、10回以上行うことをおすすめします。また、校長先生や教頭先生にもお願いして面接練習を行うことで、より緊張感があり、本番に近い環境で練習することができます。その結果、面接に対する自信が付き、自分の考えや気持ちを伝えたいという意欲も高まります。また、大学の面接では口頭試問が行われる場合があります。筆記試験とは異なり、その場で考え、言葉で答える必要があるために難しさを感じました。考える時間も短いため、募集要項で出題科目を確認し、先生方の指導や自習を通して十分に対策しておくことが大切です。

何度も練習し努力しても、必ずしも思いどおりの結果が得られるとは限りません。私自身、第一志望校には届きませんでした。しかし、その過程で積み重ねてきた努力や経験は決して無駄にはならなかったと感じています。進路について真剣に考え、挑戦し続けたことが、最終的に自分に合った進路につながったのだと思います。結果だけにとらわれず、最後まで諦めずに努力を続けて頑張ってください。応援しています！

進路が決まっていなくても、1年生のうちから意識するのはとても大切であるというのが分かりました。課題にしっかり取り組むこと、期限を守ることが評定をあげることに繋がると分かりました。

けば話すことができますが、大学のことは調べないと話すことはできません。

最後に、高校生活はあっという間に終わります。趣味や部活動など自分のやりたいこともやりながら、切り替えることを大切に、進路実現に向けて学習に励んでください。そして、人との出会いは特別なので大切にしてください。